

二〇二一年度

入学試験問題

(二月三日午前)

国語

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙九ページ、**解答用紙二枚**を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事がある時は、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(なお、作問の都合上、省略した部分があります。)

「故郷ではおやじさん、なにやってんの？」

定食屋のおじさんは、カウンターの①から彼に聞きました。四八〇円の豚肉のシヨウガ焼き定食を食べながら、彼はこう答えました。「なにも、していない」

パプアニューギニアから来た彼は、当時、国費留学生として工学部の大学院に在籍していました。そしてときどき、大学の近くにある小さな定食屋で食事をするうちに、店のおじさんともことばを交わすようになったころのできごとです。

それは、一九八〇年代前半。留学生の父親がなにもやっていないとは、②にわかに信じがたいことでした。そしておじさんは続けました。「なにもしていないって言ったって、どうやって食ってんの？」

ややストレートすぎる聞き方ではありますが、横にいたわたしもぜひ聞きたい質問だったので。すると彼は、こう答えました。

「木の实を採って食べてる」

迫力のある答えでした。高度経済成長期の都市部で育ったわたしだけではなく、一九八〇年代の日本人の中にこんな返答ができる人はほとんどいなかったと思います。

「食べている」とは、「食生活を支えている」(あ)「生活の糧」を指しています。わたしたちが暮らしている日本では、都市はもちろん、農村などにおいても、自然の中から食べ物を採集する食生活を主としてしている人はほとんどいないのでしょうか。自然から食べ物を採取する機会は、せいぜい山菜採りとか、釣りなど。それらは、食べるものを採るためというより、(い)行為そのものを楽しむ「レジャー」と位置づけるのが自然です。そのプラスαとして手に入れた物を食べる。レジャーである「採集」行為は、それ自体が食生活や命を支えるものにはなり得ません。

(う)「う、いくら魚釣りが好きだといつても、「今日一匹も魚が釣れなかったら食べるものがない」などという切羽(え)状況の人などいるでしょうか? 山菜採りやキノコ狩りにしても、「食べたら死ぬかもしれない」という心配はあっても、「採れなかったら一家が飢える」という危機と直面しているでしょうか?」

わたしたちは、おなかですいたら食べ物を買うことができます。自分で採ったり、栽培したりしなくても、他の人が作った食材や料

理を買って食べられるのですから、採れなくてもなんとかなります。彼とおじさんの、あの短い会話が忘れられないのは、発展途上の国に対する一種の珍しさや「未開」といったイメージではなく、「木の実を採って食べている」と言ったその背後に、彼らの「^③実力」を感じたからでした。買うという行為なしにコンスタントに食べ物を調達し自分や家族を生かすことができ、安全な食べ物かどうかを見分ける力もあり、食べ物となる植物が来年もその翌年も、同じように実るような食べ方を知っている……。

ただ素朴で珍しいという以上に、彼の家族の生活は、自分の力で食べ物を手にし、自然を理解する力があり、命を守る力を持っているという、「生命」の迫力が存在していました。同時にわたしは、自分の中の「未開」と対峙せずにはいられませんでした。

(中略)

現在のわたしたちが趣味として行っていることの中には、昔の人たちが生活のための生業として行っていたことが少なくありません。釣りやキャンプ、カヌーなどのアウトドア・レジャー、キノコ狩り、木の実拾い、日曜大工、陶芸や板金なども生活するために必須の作業。その中から環境を整えたり道具を作る技術が生み出されました。縫い物や編み物やパッチワークは、寒さや危険から身を守る衣服を作るのに必要でした。

「アウトドア・レジャー」ということばがあるのは、^④世界中でも限られた国だけだそうですね。アウトドアを「レジャー」として位置づけることができるのは、あまりにも便利が進んでしまっていることを表しています。そして同時に、生活に手間をかけたり自分で工夫したりするのは楽しいことなのだと教えてくれているようにも思います。

もっともつと便利にと「多くの自動化」を求めても、やがてそのありがたみが薄れたり、味気なさを感じることもあります。自動化して楽をしたいというのも生活や未来を作っていくことのひとつですが、自動だけじゃつまらない、と考えるのも、未来のひとつです。また、便利さをお金で買うのもひとつの選択ですが、できるだけ多くの工程を自分の手で行うこともまた、創造的で楽しい仕事です。

そのことをあらためて実感したのは、はじめて自分で味噌を仕込んだときでした。

それまでのわたしは、味噌といたらパックに入ってお店の棚にあるもので、自分で作るなど考えたこともありませんでした。

(中略)

^⑤自分で作ると、今まではなんとも思わなかったことが不思議に感じられることもあります。そのひとつは、「味噌の製造年月日って、いったいなにを指しているのだろうか?」ということでした。そしてその疑問は、食品に表示された「安全情報」にあまりにも依存してきた自分の生活を振り返るきっかけにもなりました。当然のことですが、わたしの味噌には、賞味期限の日付が印字されていません。自分

で作っているので使用原料ははっきりわかりますが、「商品」になった食品にあるような情報はありません。安全なものを食べたいと思つたら、その判断は最終的に自分が下すしかないこと、作る過程が見え、実感がある食べ物に愛着がわくこと、おいしいもの、まずいものに対してその理由を推測することができること、食材や加工品を作っている人たちに対してありがたみがわくこと……など、自らの手で味噌を仕込むことで、ふだんの自分の食生活、食環境についていろいろと考えるようになりました。

なかでも、食べるものが安全であると確信して口に入れるのには、ことのほか「実力」がいるように思いました。買ったもの、特に加工品は、だれかが作って、だれかが安全を「保証」し、賞味期限を決めてくれます。「メーカーや検査機関、行政がきちんとやってくれているだろうから、きつと大丈夫」と漫然まんぜんと思いきむことで、もしくは何も考えずお任せ状態で受け入れてきた自分に気づいたのです。「きつと大丈夫」の「きつと」とは、ちよつと心配だけれど、大丈夫であつてほしいから大丈夫ということにしちやおう、といったところでしょうか。自分には何の根拠きよこもないし、他の人が言うことに納得できる理由があるのかわからないのか、あるとすればどういふものなのか、よくわからないけど、大丈夫という希望を持っている自分を追認おんにんするだけだったのです。

食べ物に関する実力。そんな、^⑥生き延びるためにもつと必要な能力を、わたしたちは持つていないということなのででしょうか。身の回りにあるもののしくみや原理、由来を考えることなくものごとがうつり変わっていく。わたしたちはそんな世界に生きていゝのではないのでしょうか。便利に思える科学技術も、その表面だけしか見ていないのではないのでしょうか。

だからこそ、（お）というパプアニューギニアの彼の家族に、強烈れつれつな珍しさとともに、力強さ、そして迫力を感じたのだと思います。

（佐倉統／古田ゆかり『おはようからおやすみまでの科学』より）

問一 — 線部①「彼」とありますが、だれのことですか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 国費留学生としてパプアニューギニアから日本に来たおやじさん。
- イ 国費留学生としてパプアニューギニアから日本に来たおやじさんの息子。
- ウ 大学の近くにある小さな定食屋に豚肉のシヨウガ焼きを食べに来た筆者。
- エ 大学の近くの定食屋に豚肉のシヨウガ焼きを食べに来た筆者のおやじさん。

問二 — 線部②「にわかには信じがたいことでした」とありますが、筆者はなぜそのように思ったのですか。わかりやすく答えなさい。

問三 本文中の（あ）（い）（う）にあてはまる言葉を、次のア～ウの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア むしろ
- イ たとえば
- ウ すなわち

問四 本文中の（え）にあてはまる表現を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア つまった
- イ とまった
- ウ こまった
- エ はまった

問五 — 線部③「実力」とありますが、どのようなことですか。「〜こと」に続くかたちで本文中から四十字以内で探し、その始めと終わりの五字ずつを抜き出して答えなさい。

問六 — 線部④「世界中でも限られた国」とは、どのような国ですか。次のア〜エの中から一つを選び、記号で答えなさい。

- ア 環境を整えたり道具を作る技術を生み出すことで寒さや危険から身を守る必要がある国。
- イ キノコ狩りや木の実拾い、陶芸などを今でも生活の生業として行っている発展途上の国。
- ウ 日曜大工や陶芸、縫い物やパッチワークなどの生活を便利にする技術を推進している国。
- エ 生活のための生業として行っていた多くの作業が自動化されて、便利に暮らしている国。

問七 — 線部⑤「自分で作ると、今まではなんとも思わなかったことが不思議に感じられることもあります」とありますが、筆者はなぜこのように感じるようになったのですか。それを説明した次の文章の（ ）に「根拠」「大丈夫」という言葉を使い「」はつけません）、二十五字以内で答えなさい。

だれかが作って安全を保障したものを（ ） ことに気づいたから。

問八 — 線部⑥「生き延びるためにもっとも必要な能力を、わたしたちは持っていない」とありますが、筆者はこのことを何と表現していますか。これより前の本文中から九字で抜き出して答えなさい。

問九 本文中の（ お ）にあてはまる表現を、本文中から十三字で抜き出して答えなさい。

問十 あなたがこれまでに感心した昔の人の技術や知恵^えを、その理由を含めて二百字以内で書きなさい。

二

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

ケンコウナシセイトハムネヲヒライテケンコウコツヲトジルコトダトイワレマ

ス。トコロガトシヲトツタリウンドウブソクデキンリヨクガオトロエルトシセ

イガマエニクズレテネコゼギミニナリガチデス。ソレガクビヤカタノコリセナ

カヤコシノイタミナドサマザマナカラダノフチヨウノゲンインニナリマス。

三

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 巻物マキモノを納めた箱。
- (2) 姿見スグミに映る自分を見る。
- (3) 解答冊子ケツダサシを見る。
- (4) 警笛ケイペキを鳴らす。
- (5) 君の目は節穴フシアナか。
- (6) 資源シヨウゲンをキョウキュウする。
- (7) 費用ケイヨウをフタンする。
- (8) 近所のセントウセントウを利用する。
- (9) 学級ニッシニッシを書く。
- (10) 敵の力にコウサンコウサンする。

四

次の(1)～(5)の()にあてはまることばを、あとのア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 解決の()口を見つける。
- (2) 古い資料を()解く。
- (3) ()渡りの人生だった。
- (4) 自分の()張りを主張する。
- (5) 情報収集の()を張る。

ア あみ イ いと ウ つな エ なわ オ ひも

受験番号		

氏名	

得点	

*印のところは、何も記入しないでください。

小計	

問一	
問二	
問三	あ い う
問四	
問五	始め 終わり
問六	
問七	
問八	
問九	
問十	

